

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.6.2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋市立大学 田辺通キャンパス整備工事	階数	地上6F
建設地	名古屋市瑞穂区田辺通3丁目1番1	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、準住居地域、準防火地域	平均居住人員	500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,800 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年5月 竣工	評価の実施日	2025年4月25日
敷地面積	13,949 m ²	作成者	
建築面積	2,919 m ²	確認日	2025年4月30日
延床面積	11,218 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 3.1 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 62%</p> <p>③上記+②以外のオンサイト手法 62%</p> <p>④上記+オフサイト手法 62%</p> <p>46 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.7</p> <p>音環境 2.9, 温熱環境 3.3, 光・視環境 4.3, 空気質環境 4.2</p> <p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.8</p> <p>機能性 4.0, 耐用性・信頼性 3.9, 対応性・更新性 3.4</p> <p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.4</p> <p>生物環境 4.0, まちなみ・景観 5.0, 地域性・アメニティ 4.0</p>		
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4</p> <p>建物外皮の熱負荷 3.0, 自然エネルギー 4.0, 設備システム効率化 5.0, 効率的運用 4.5</p> <p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6</p> <p>水資源保護 3.4, 非再生材料の使用削減 3.9, 汚染物質回避 3.3</p> <p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.9</p> <p>地球温暖化への配慮 4.5, 地域環境への配慮 4.1, 周辺環境への配慮 3.1</p>		

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>名古屋市瑞穂区に建設される増築新棟の大学である。既存棟との融合、調和、共創空間となる大学を目指している。</p>	<p>その他</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>天井裏も含めてF☆☆☆☆かつ低VOCの建築材料を使用し、室内空気質環境を良好に保つための配慮をしている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>耐用年数の長い材料を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>自生種の保全に配慮した緑地づくりをし、周辺へのまちなみ調和に配慮した景観計画をしている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>集中管理システムにより、消費エネルギーの把握から、主要な設備効率までの評価が可能である。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>リサイクル材料を使用し、建物の環境負荷の軽減に努めている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

名古屋市立大学 田辺通キャンパス整備工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策			4.4
LR1 エネルギー	4.4	0.4	/
LR3.1 地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2 温熱環境悪化の改善	4.0	0.05	
2. 自然共生			3.8
Q3.1 生物環境の保全と創出	4.0	0.09	/
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会			3.7
LR2.1 水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	3.9	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.4



2. 自然共生

評価点 = 3.8



3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2)において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。